

# 保護者が子どものスイミングクラブに求めるサービスに関する研究

## A Study on the Ideal Service of Swimming Clubs for Child from Parents Point of View

1K06B119

指導教員 主査 原田宗彦先生

菅田 早希

副査 間野義之先生

### 【緒言】

女性専用小規模サーキットトレーニングジムに、ヨガやピラティス専用スタジオ型施設。空前の過熱ぶりを見せている健康ブームに便乗し、様々な業態のフィットネスクラブの新規開業が続いている。今後も業態の多様化は進み、様々な生活者の求めるニーズに合致する業態のクラブが誕生するものと見られている。このように、成人を対象とした施設が注目を集める一方で、今日のフィットネスクラブの礎を築いた子どものスイミングクラブも、習い事として高い人気を誇っていることが、ベネッセ教育情報サイトやSSF笹川スポーツ財団の調査から明らかとなっている。少子化や子どもの教育活動の多様化など、厳しい状況下に立たされているものの、ここには時代や性別を問わない潜在的なニーズがあることに着目したい。

### 【研究の目的】

保護者がスイミングクラブに求めるサービスや入会動機を明らかにすることで、新規会員の獲得や既存会員の継続に向けて参考となるようなデータを導き出すこと。

### 【研究の方法】

調査方法：質問紙調査

調査対象：コナミスポーツクラブ所沢 運動塾のスイミングに通う子どもの保護者 104 名  
(有効回答数 103 部)

調査期間：10月31日～11月1日 計3日間

調査項目：保護者の性別・年齢、子どもの性別・年齢、通い始めた年齢、1週間あたりの平均利用回数、スイミングクラブに通い始めた理由、サービスに関する質問30項目

### 【調査結果】

・保護者が回答したスイミングクラブへの入会動機は、「健康的な子どもになって欲しい」という理由が圧倒的に支持されており、一方、「スポーツの一流選手にならせるため」という項目に対しては否定的な回答が目立った。子どもの男女間でt検定を行った結果、「子ども自身が行きたいと行ったため」という項目のみ、統計的に有意な差が認められた。

・サービス面においては、「レッスンの安全性が高いこと」が最も重視され、サービス・クオリティを構成する要素においては、「安心感」、「対応」、「信頼性」、「共感」、「可視性」の順に平均値が高かった。

### 【考察及び結論】

・スイミングクラブへの入会動機において、「体力・健康増進動機」が「技術習得動機」よりも支持される点は時代を経ても変わらない大きな特徴であり、健康に関する水泳の効果を保護者に訴求することが、新規会員の獲得にあたっては有効であると考えられる。また、既存会員の継続に向けては「サービスに対する満足度」を高めるだけでなく、健康面や規律面での「子どもの

変化」を実感させることが必要不可欠である。

・プールは非常に危険な場所であるがゆえ、「安全性の高さ」は保護者も特に重視する点である。それに関連して「参加人数」も安全性が確保される範囲に設定しなければならない。また、サービス・クオリティを構成する要素で最も重視された「安心感」は、すべて指導者について言及した質問項目であったことから、指導者の質を高めることや人材教育の重要性が示唆された。